



## 『スパークス 日本株長期投資のすすめ』

スパークスの株式投資、株式市場などに対する見方を紹介するコラムです。

### 第60号(2009年11月27日)

#### 「なぜ日本株か」

11月13日付けの「日本株長期投資のすすめ」では、中国やインドの潜在的な成長性についてお話ししました。ここで当然、こういった国々の成長を取り込むのに、なぜわざわざ日本株に投資しなくてはならないのかという疑問がわいてきます。

この点について、以下の積極的な理由が挙げられます。一点目、日本には世界に誇れるモノづくり技術があります。これまで自動車産業などにおいて日本の高品質で壊れにくい、かつ低燃費な車が世界的に認められてきました。またソニーや松下の家電製品や、キャノンの高機能カメラやオフィス機器、TDKの磁気テープや電子部品などが世界のトップとなったのは主に80年代のことでした。私どもは、これに続く企業群がまだまだ日本に存在すると感じています。例えば、ランニングシューズのアシックス、紙おむつ・生理用品のユニチャーム、金型部品製造のミスミなど、広義でいう日本のモノづくりが実力を発揮し、世界に飛躍できると考えているのです。特にアジア圏に住む20~30億人の生活水準が向上するにつれ、特定の分野における日本製品は大きな需要が見込まれるのではないのでしょうか。

二点目に、日本株が他のアジア株と比較して割安であるという点です。例えば成熟経済である日本と成長途上にある中国では、株式市場の評価のされ方が大きく異なります。中国の現時点における市場環境をイールドスプレッドという指標でみると、リスク資産である株式よりも安全資産である債券のほうが、より高い利回りで購入できることを示唆しています。つまり、成長の著しい中国では多くの銘柄が、今後の高成長期待から実態価値以上に株価が押し上げられている可能性があるわけです。

一方、日本は世界の株式市場のなかで昨今の上昇率がもっとも鈍いことからわかるように、将来の成長力の乏しさを悲観して外国人投資家だけでなく国内投資家からも敬遠されている傾向にあります。ここでバリューストック投資家としての逆バリエーション的発想が生きてきます。日本の株式市場には3000社以上の企業が上場していることを忘れてはいけません。全ての企業が一緒にたに評価されなくてはならない理由はどこにもなく、むしろ真の成長銘柄が割安に放置されている可能性があるのです。そして、これがアジア新興国を中心とした世界経済成長を、日本株を通じてとりこむチャンスなのではないのでしょうか。

(注) 本コラムは、マネックス証券Web-Site「マネックスラウンジ」の「マネックスメール」に掲載されている「スパークス・アセット・マネジメントの『SPARX Way』」をもとにスパークスが作成したものであります。また、上記は株式投資に関して理解を深めていただくためのものであり、特定の有価証券を推奨しているものではありません



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。